

本年度大会のもち方について

村落社会研究会の最大の行事である本年度の大会について、事務局として種々考慮をかされて来ましたが、結局諸般の事情をくんで上の様に予定を組むことになりました。もちろんこれとても確定的なものではありませんが、特別の事情のない限り会員諸賢の御協力を得てこの通り実施いたし度いと思ひます。

先づ日程であります。例年の大会が充分論議をつくさずに時間切れになることや、他の学会の前後で日が取れないといった不満がありますので、本年は時期的におくらせて十一月の休日二日続きを利用し、他学会と切離して開催することに致しました。この場合問題は会員による報告者を確定することであつて、もし希望者が一、二名といった場合には日程をきりつめなければならぬこととなります。この点からも、出来るだけ多くの会員が参加され、特に自由課題のたて前から各方面の問題について多数の報告がなされることを切望して止みません。

次に開催地について、本年は東京以外の地（例えば愛知）をえらび、泊り込みで膝つき合せてやれる機会を持ちたいと思つて居りましたが、後記の東京からの意向にもあるように、会員の分布状況や会の現状からみてやはり東京開催の安全性？を取ることに致しました。たゞ開催場所については当初の意向にそえるように適当な会場を選んでいただき、充分論議をつくせるようにしたいと思います。

大会のスケジュールは、第一日を研究報告に、第二日をシムボジウムにあてております。このうちシムボジウムについては、本年初めての試みでありますので、家族と村落の各々について司会者及び報告者（問題提起者）は事務局側より依頼して、主要な問題点を展開していただき、後は一般会員の発言による討論を行う予定です。第一日の研究報告については、すでに前回の通信で申上げたように、本年は特定の課題を選定することなく、各会員の最も関心の深い問題について自由に題目を選定してもらい発表していただくことに致します。したがつて会員アンケートに示されたような多様な研究関

心をこの機会に是非示してほしいと存じます。報告者数にもよりますが一人当り報告時間は約一時間はとれると思ひます。なお同封の意向聴取の返信により報告希望の方々は、別にレヂュメ等につき御連絡いたします。従来例年の大会には課題委員や事務局から発表していただくような方にあらかじめ依頼をして報告者の数を揃えることが多かつたわけですが、何分かような依頼ではその範囲も限られ勝ちでありますので、自発的な申込み者によつてスケジュールが充足されることを願つて止みません。特に地理学、歴史学、民俗学等従来大会報告のほとんどなかつた領域からも積極的に参加していただくように希望いたします。

（事務局 中島記）